SDGｓ　×　ライフセービング部　×　生物

ライフセービング部
選択授業「生物」
3年D組　横田　虹太郎

私は高校の生物の授業でSDGｓ（持続可能な開発目標）について学びました。17の目標の1つ「海の豊かさを守ろう」について活動をしています。持続可能な開発のために、海や海の資源を守ることや海や海の資源を持続可能な方法で利用しています。

私は高校の部活動でライフセービング部に所属しています。ライフセーをビング部では水辺の事故を未然に防止するため、監視・救助・救護などの知識や技術を身につけるために活動しています。ライフセービング部は水辺に関する問題にも取り組んでいます。自然を相手に活動している私たちが行う取り組みの1つにビーチクリーン(海岸清掃)が挙げられます。　私たちは海で練習をする前にビーチクリーンを行い、ゴミがあることで怪我を負わないよう、未然に事故を防いでいます。

図　ビーチクリーン活動

地球の約7割は海といわれており、そこにはおおくの生物が住んでいます。私たちは陸に住んでいますが人間の活動により、海が汚染され続け、深刻な状況にまで陥っています。海が汚染される原因の1つとして人間の生活ごみが挙げられます。海ゴミは街中から人間が出したゴミが川から流れてきたものや、ポイ捨てが原因です。近年プラスチックの生産量は大きく増えていて、飲み物や食べ物の容器・発泡スチロールなど包装に使うプラスチックの消費が増えています。プラスチックのリサイクルは日本では積極的に行われていますが、世界では約1割ほどです。プラスチックは土にも戻らず、放置しても溶けてなくなることもありません。プラスチックのメリットは「丈夫」なことです。デメリットも「丈夫」なことです。プラスチックは海の中で砕けて小さな破片となりそれを魚や海鳥などが餌と間違えて食べてしまいます。

図　ビーチクリーン活動

ビーチクリーンの実施により、ゴミを１つ拾えばゴミは1個減ります。１００人が1個ずつ拾えば１００個減ります。しかし、もっと大事なことはゴミを出さないことです。誰かがゴミを出せば誰かが拾うことになります。

私は将来、水族館で働きたいと考えています。きっかけは、私が中学時代に川で生き物を捕まえ、育てることに興味を持ったからです。川も海と同様に人が汚せば、そこに住む生き物が

住処を失い絶滅することもあります。私はそのように人間の手で絶滅してしまいそうな生き物を保護するために、環境を守っていきたいです。

　海の生物の多様性を守っていくためには、今ある海を守っていく必要があります。SDGsは2030年に向けた目標です。地球温暖化などが進み、地球環境悪化が加速していますが、止めるタイミングは今だと私は考えています。2030年になると、私自身は28歳になっています。私が将来、水族館で働く時に今の生物種が全て残っているとは限りません。しかし、守る活動をしていくことはできます。今ある生物の多様性が失われないよう、これからもビーチクリーンをはじめ、多くの環境問題に取り組んでいきたいと思います。

　このレポートを読んでいただいたみなさんに少しでも環境について考えていただけたら幸いです。最後まで読んでいただきありがとうございました。

図　ライフセービング部でビーチクリーン活動後に撮影しました。多くのゴミを集めることができました。少しでもこのゴミ袋が減ることを願っています。